

前期課程(春季入学試験)

科目名	受験番号
書学書道史	氏名

I 「共通問題」次の1～20の空欄を埋めなさい。(3点×20＝60点)

- 1 廟堂の修復と祭器の修造を行った魯相の韓勅をたたえるために、後漢の永寿二年に建立された(①)はいまも曲阜の(②)廟に存在する。
- 2 一九九七年に出土した、唐の工部尚書郭虚己墓誌銘の書者は(③)である。その書や二年後の多宝塔碑の書風は、民国十一年に出土した晩年の(④)碑などに比べて用筆は厳整である。
- 3 包世臣に師事した(⑤)の楷書や行書は師風を踏襲したが、包が善くしなかった篆書や隸書は包が高く評価した(⑥)の風に倣った。
- 4 平復帖は(⑦)時代の数少ない墨跡のひとつで、その書者は古くから陸機と伝えられてきた。その騎縫印には北宋第八代皇帝(⑧)宗の「宣和」「政和」印や双龍の印などが認められる。
- 5 欧陽詢の第四子である欧陽(⑨)は早くに父を失ったが、母が買い集めた父の書を習い、別格を具えるにいたった。その伝世の書には(⑩)碑や泉男生墓誌銘がある。
- 6 群馬県高崎市に所在する(⑪)は、(⑫)時代に上野国に新たに郡が設置されたことを記念した碑で、金井沢碑・山上碑と併せて上毛三碑と呼ばれる。
- 7 (⑬)は、聖武天皇自筆の長巻で、光明皇后によって東大寺大仏に献納された宝物の目録(⑭)に記載されている。
- 8 京都国立博物館に所蔵される国宝「芦手下絵和漢朗詠集」を書写した(⑮)は、その娘のために書論(⑯)を著した。
- 9 藤原俊成の子で『詠歌大概』を著したことなどで知られる(⑰)の日記を(⑱)と呼ぶ。
- 10 (⑲)は寛永の三筆の一人に数えられ、近衛前久に学んだ和様の能書である。同時に真言宗の僧侶として(⑳)流の書も得意とした。

II 「選択問題」次の①～⑳の事項から二つを選び、それぞれ一五〇字以内で知るところを述べなさい。

(20点×2＝40点)

- | | | | |
|----------------|--------|-----------|----------------|
| ① 石鼓文 | ② 散氏盤 | ③ 温泉銘 | ④ 張玄墓誌 |
| ⑥ 何紹基 | ⑦ 王献之 | ⑧ 校碑 | ⑨ 石経 |
| ⑩ 家刻法帖 | ⑪ 写経所 | ⑫ 金剛般若経開題 | ⑬ 粘葉装 |
| ⑭ 女手 | ⑮ 平家納経 | ⑯ 法性寺流 | ⑰ 墨跡 |
| ⑱ 『書品』(東洋書道協会) | ⑲ 伏見天皇 | ⑳ 中林梧竹 | ⑳ 『書品』(東洋書道協会) |

